

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：教授

氏名：長岡 雅美

研究分野 運動方法学 スポーツプロモーション	研究内容のキーワード 運動能力 コーディネーション 幼児 児童 高齢者 レジャースポーツ
学位 臨床教育学博士, 教育学修士	最終学歴 武庫川女子大学 臨床教育学研究科博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 地域連携と学生の主体的参加型授業	2016年～現在	5/18, 6/15, 7/13の3回の授業において、精神障がい者施設と連携し、スポーツを介した交流会を実施した。授業では、障がい者に配慮した安全な内容を学生自ら企画し、時間管理を含め、学生が主体的に交流会全体を運営した。また、施設代表者から利用者の特徴を聞いたり、学生からの様々な質問について答えてもらう機会も持ち、スポーツの可能性や利用者理解を深める授業を実施した。 科目名：障害とスポーツレクリエーション
2. 特色ある教育方法の実践例	2014年～現在	指導法の授業において、学生が互いに指導する場面を撮影し、録画されたビデオを見てそれぞれの指導場面を振り返ることにより、自己の課題を意識させ学習意欲を喚起させる工夫をしている。 科目名：レクリエーション指導技術
3. 学生の授業外における学習促進のための取組み	2010年～現在	授業で学んだ理論を実践できるスポーツイベントにボランティアスタッフとして参加し、実際の組織運営やイベントのオペレーションを授業時間外で学ぶ機会を設定している。 科目名：専門演習 I AB, II AB
4. 学生の授業外における学習促進のための取組み	2010年～現在	本時に学習した実技内容をノートにまとめ、関連する内容について授業中に課題を出している。また、出された課題もすべてノートにまとめさせ、受講する間に作成したノート（成果物）が学習ファイルとなるよう指導をしている。 科目名：レクリエーションアクティビティ
5. 特色ある教育方法の実践例	2010年～現在	授業の中で、ペアワークによって個別支援のプロセスを実践し、支援者の役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深める工夫をしている。 科目名：レクリエーション指導技術、レクリエーション指導論、レクリエーションマネジメント
6. マルチメディア機器を利用した授業方法	2010年～現在	マルチメディアを使用し、授業に適切な教材を活用して講義内容の理解を深める工夫をしている。 科目名：レクリエーション概論、レクリエーション指導論、レクリエーションマネジメント

2 作成した教科書、教材		
--------------	--	--

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 介護予防運動スペシャリスト養成（資格認定）講習会	2018年9月17日	介護者等の自立生活の支援に必要な不可欠である身体機能の回復・維持・向上を主たる目的とする指導者を養成する講習会。しなかやかな体づくり～調整力と柔軟性の向上
2. 寝屋川市教育委員会 指導者講習	2017年3月17日	地域におけるスポーツ推進委員の役割（寝屋川市役所）
3. 全国スポーツ推進委員研究協議会	2016年11月18日	生涯現役社会の実現に向けたスポーツ推進員の役割（鯖江市文化センターホール）
4. 芦屋市立保育所公開保育	2015年9月	発育・発達に合わせた多様な動きを身に付ける運動遊び（新浜保育所）
5. 日本体育協会公認アシスタントマネジャー養成講習	2014年6月	「対象者のニーズに合わせたプログラム作りの実際」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
会講師 6. 日本体育協会公認上級指導員養成講習会講師	2013年10月	(兵庫県民会館) 「女性とスポーツ～身体的特徴について」(大阪体育大学)
7. 富山市体育協会主催ジュニア実技指導講習会講師	2013年8月	「多様な動きをつくる運動～コーディネーション運動を取り入れて～」(富山市総合体育館)
8. 富山市体育協会主催高齢者の健康体力づくり指導者講習会講師	2013年8月	「コーディネーショントレーニングを取り入れた高齢期を支える体力づくり」(富山市総合体育館)
9. 加古川市教育委員会主催家庭教育セミナー講師	2013年6月	「親子スポーツ」(日岡山体育館)
10. 芦屋市教育委員会主催市民スポーツ啓発講座講師	2012年9月	「運動不足解消と健康管理のためのウォーキング・クリニック」(芦屋市立体育館)
11. 加古川市教育委員会主催家庭教育セミナー講師	2012年6月	「発育・発達に応じた運動・スポーツ」(日岡山体育館)
12. 文部科学省委託事業スポーツ指導者養成講師	2012年2月	「ファミリースポーツ体験」(播磨町総合体育館)
13. 芦屋市教育委員会主催市民スポーツ啓発講座講師	2011年10月	「運動不足解消と健康管理のためのウォーキング・クリニック」(芦屋市立体育館)
14. 西宮市教育委員会主催スポーツ指導者養成講習会講師	2011年9月	「運営者・指導者の発掘・育成」(西宮市中央体育館)
15. 尼崎市社会福祉協議会介護予防事業講師	2011年4月～2014年3月	「高齢者の生きがいづくり」(鶴の巣園・和楽園)
16. 全国体育指導員連合主催近畿体育指導員研究協議会講師	2011年2月	「中高年の運動プログラム」(神戸市立中央体育館)
17. 西宮市教育委員会主催市民スポーツリーダー研修会講師	2011年2月	「中高年のスポーツ・運動スポーツプログラム」(西宮市中央体育館)
18. 富山県教育委員会スポーツ指導者養成講習会講師	2010年7月	「事業のすすめ方～事業計画・指導計画～」(富山県体育文化センター)
19. 尼崎市老人クラブ研修会講師	2010年2月	「高齢者の健康づくり」(園田区公民館)
20. 尼崎市社会福祉協議会健康力アップ講座講師	2010年	「健康への気づきと運動習慣の定着に向けて」(尼崎市総合老人福祉センター)
21. 尼崎市社会福祉協議会健康力アップ講座講師	2009年	「健康への気づきと運動習慣の定着に向けて」(尼崎市総合老人福祉センター)
22. 西淀川区子育て支援ボランティア養成講座講師	2008年9月	「子どもの育ちと遊び」(西淀川区子ども・子育てプラザ)
23. 尼崎市教育委員会主催コミュニティスポーツリーダー講習会講師	2008年8月	「気軽に取り組めるスポーツ・レクリエーション」(尼崎市青少年センター)
24. 健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新講習会講師	2008年5月	「特定保健指導におけるコミュニケーションスキル」(兵庫県健康財団)
<b>4 その他</b>		
1. カヌー部 部長	2017年4月1日～現在	
2. 全国スポーツ推進委員研究協議会	2016年11月18日	生涯現役社会の実現に向けたスポーツ推進委員の役割
3. チアリーディング部 顧問	2011年4月～2014年3月	
<b>職務上の実績に関する事項</b>		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 幼児体育指導員	2014年7月	日本幼児体育学会認定
2. コーディネーショントレーナー	2012年11月	ライプチヒ大学公認
3. 障害者スポーツ指導員中級資格	2007年3月	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会認定
4. 福祉レクリエーション・ワーカー	2004年3月	公益財団法人日本レクリエーション協会認定
5. 日本体育協会公認スポーツ指導者	2000年11月	公益財団法人日本体育協会公認
6. レクリエーション・インストラクター	1997年7月	公益財団法人日本レクリエーション協会認定
7. 高等学校教諭専修免許状(保健体育)	1989年3月	
8. 中学校教諭専修免許状(保健体育)	1989年3月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 7. 八尾市文化・スポーツ課 八尾市スポーツ施設指定管理者選定委員会委員	2023年5月29日～2023年3月31日	
2. 神戸市教育委員会神戸市体罰を許さない学校づくり検討委員会委員	2023年	
3. 豊中市体育施設指定管理者選定評価委員会	2023年	
4. 豊中市スポーツ推進審議会委員	2022年～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
5. 尼崎市公園緑地分科会委員 6. 尼崎市公園等指定管理者選定委員会委員 7. 西宮市教育委員 8. 八尾市教育委員会指定管理者選定委員会委員 9. さくらFM番組審議委員	2022年～現在 2021年 2018年～現在 2018年 2013年～2014年	審議会において放送番組を試聴し感想を述べる他、番組全体の構成等について放送事業者と意見交換する。地域コミュニティ放送としての重要な役割の一つである災害時における情報収集と情報提供の方法について検討を行った。 公益財団法人ユーハイム体育・スポーツ振興会から派遣され、ドイツ・ライプチヒで開催される「トレーニング科学・国際集中講座」に参加した。帰国後、旧東ドイツにおけるスポーツ科学・スポーツ教育の現状について、ユーハイム体育・スポーツフォーラムで発表した。 県内スポーツ振興の中核となるスポーツクラブ、関係団体と連携しながら、実態調査及び講習会を開催し、ファミリースポーツの振興、指導者発掘のプロジェクトに取り組んだ。 尼崎市教育委員会スポーツ審議委員を2009年から努め、2010年度は尼崎スポーツ振興計画策定にかかわる。2013年度はスポーツ振興計画中間評価に向けてスポーツ振興課とともに全市調査を実施し、2014年度は尼崎市スポーツ推進計画（後期計画）策定に関わる。総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）を全国に普及させるために、先進的な取り組みをしているクラブの現状を把握し報告書にまとめるとともに、事業の立案・企画、総合型クラブの育成にむけたアクションプランの検討を行った。
10. 「トレーニング科学・国際集中講座」派遣指導者（ドイツ・ライプチヒ大学）	2012年2月	
11. ひょうご地域スポーツ指導者育成推進委員	2011年～2012年	
12. 尼崎市教育委員会スポーツ審議委員	2009年～2017年6月	
13. 日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成中央研究員	2006年	
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. みんなのスポーツ	共	2014年10月	日本体育社	太田敏勝, 長ヶ原誠, 長岡雅美 他 担当：p15-17 高齢化がますます進展する地域のコミュニティにおいて、高齢者の多様なニーズにどう応えていくべきか、スポーツのあるべき姿を改めて見つけ、複眼的な視点でその価値を捉えることを通して、高齢者のスポーツライフにおける社会的支援のあり方について提言した。
2. 健康スポーツ学概論—プロモーション, ジェントロジー, コーチング—	共	2013年6月	杏林書院	大津和義, 山羽教文, 萩裕美子, 涌井佐和子, 長岡雅美 他 担当：第1章1-4「健康福祉論」p30-37 身体活動レベルのプロモーション, 身体活動の中で組織的かつ制度的な活動文化としての特徴をもつスポーツの推進方法に応用したスポーツプロモーションについて触れ、生涯スポーツの推進をバックアップするサポートロジー（支援学）として最新のコーチング理論をまとめたものである。
<b>2 学位論文</b>				
1. 幼児期における協調運動の発達特性の定量的評価に関する研究	単	2018年4月	武庫川女子大学臨床教育学研究科臨床教育学専攻	本研究は、ゲームの実像に即した分析項目を設定し、勝敗に影響を及ぼす質的な戦術的側面について明らかにすることを目的とした。その結果、精度の高い速攻が勝敗を分ける大きな要因であることが示された。また、サイド攻撃、カットイン攻撃での質の高さが勝ちにつながる要因であり、これらの攻撃を可能とするグループ及びの
2. ハンドボールにおけるゲーム観察—攻撃活動について—	単	1991年3月	大阪教育大学大学院教育学研究科, 保健体育専攻, 運動学専修	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
				個人の技術・戦術能力の向上が求められることが推察された。
<b>3 学術論文</b>				
1. 自治体における成人人口を対象とした運動・スポーツ事業と市民の実施頻度・継続期間・組織所属との関連性（査読付）	共	2015年9月	生涯スポーツ学研究, vol.12, No. 21, 1-13	谷めぐみ, 長ヶ原誠, <u>長岡雅美</u> , 伊藤克広, 玉井久実代, 益富真子 担当：調査内容検討, データ分析 尼崎市が実施している各種運動・スポーツ推進事業と, 市民の運動・スポーツの実施頻度, 活動の継続期間, チームやクラブ等の組織への所属, それぞれとの関連について判別分析を用いて検討した。
2. 社会を育てるスポーツの力—高齢者におけるスポーツの心理的・社会的効果に着目して—（査読付）	単	2012年11月	人間福祉学研究, vol.5, No.1, 39-50	スポーツを非日常性という概念からではなく, 日常的な生活を繰り広げる生活者の視点からその特性について触れ, 生活者がスポーツからどのような恩恵を受けるのか, 精神的, 社会的な効果について示し, スポーツが暮らしや地域の活力になることについて検討するものである。
3. レクリエーション教育の効果について（査読付）	共	2010年3月	自由時間研究, 36, 76-84	山本存, <u>長岡雅美</u> , 田島栄文, 弘原海剛, 和久宗利, 中山ふみ江 担当：論文執筆, 調査内容検討, データ分析 レクリエーション協会が認定する課程認定校において, 多様な専門領域で学ぶ学生にとって, レクリエーション教育がどのように活かされるのか, 質問紙調査の結果から考察したものである。
4. シニア世代によるボランティアグループの活動に関する研究—活動の現状と活性化に向けた課題を中心に—（査読付）	単	2009年3月	レジャー・レクリエーション学研究, 62, 33 - 42	高齢化がますます進展する地域のコミュニティにおいて, 高齢者の潜在的な能力を引き出す活動としてボランティアに焦点をあて, ボランティア実践者の質問紙調査結果から活動の活性化に向けた課題について考察したものである。
5. 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域スポーツ学校運動部活動の連携の可能性	単	2009年3月	人間学研究, 24, 37-42	日本のスポーツ基盤である学校体育, 中でも学校運動部活動について, 教育課程の中でどのように位置づけられてきたのか, 現在までの経緯を追求し, 学校運動部活動の役割と意義の明確化を図りながら, 地域スポーツとの連携のあり方を検討する。
6. シニア世代の社会参加促進をめぐる取り組み—A市「地域福祉サポート事業あり方検討会」の試み—（査読付）	単	2009年3月	自由時間研究, 34, 3-29	シニア世代の社会参加をめぐる地域でいかなる取り組みがなされているか, A市のある事業を取り上げ, その企画立案の背景から検討会実施までの概要を踏まえた上で, 事業の特徴, 効果, 評価の視点について述べ, 今後のシニア世代の社会参加促進に関わる検討課題について考察した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 聴覚障害児におけるリズム能力とバランス能力の特性	共	2021年4月24日	第4回日本DCD学会	<u>長岡雅美</u> , 三好智子, 中井昭夫, 上田憲嗣, 綿引勝美 本研究は, 身体活動中の振動状態のセンシングデータから, 聴覚障害児における運動リズムやバランス（のぼらつき）の特性を導き出すことを目的とした。その結果, 運動学習過程でのサイコモーター的な動作コントロールの仕方, 対象者一人ひとりの個性的なコントロールの戦略があることが示唆され, センシング技術が運動特性を導き出す有効な測定技術であることが確認できた。
2. 幼児期におけるコーディネーション能力評価に向けた基礎的研究（2）—Mokis-StudieテストとTraceCoder®を用いた描画動作の特徴—	共	2019年9月	日本小児健康教育学会第38回大会 p.36-37（安田女子大学）	<u>長岡雅美</u> , 三好智子 5歳児クラスの園児を対象とし, 円描画課題において, 速度と精度に考慮した課題遂行中の幼児の描画動作における協調運動の特徴を検討した。利き手では, 最適な運動パターンが戦略的に形成されていくが, 非利き手では, 手先や上肢を操作する運動パターンが未形成で, 特に最適な速度調整が困難であることを報告した。
3. 幼児期におけるコーディネーション能力評価に向けた基礎的研究（2）—Mokis-Studieテスト	共	2018年9月	日本小児健康教育学会第38回大会 p.36-37（安田女子大学）	<u>長岡雅美</u> , 三好智子 5歳児クラスの園児を対象とし, 幼児期における運動発達の特徴を明らかにするためにコーディネーション能力テストと目と手の協応課題との関連について検討した。そして, 目と手の協応課題におけるコーディネーション能力を時空間的に評価できることを報告し

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
とTraceCoder®評価との関連一				た。
4. 幼児期における協調運動の発達特性	共	2018年4月	第2回日本DCD学会学術集，p.21. (弘前大学)	<u>長岡雅美</u> ，石川道子，三好智子 幼児を対象に発達性協調運動障害を評価する質問紙法のDCDQ-Jと実際の運動を評価するコーディネーション能力テストとの関連から幼児期における運動発達の特徴を検討した。そして、コーディネーション能力テストの課題別による発達段階の違いについて報告した。
5. ポスター発表「円描画における微細運動の分析(1)」	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会論文集，pp.833. (久留米大学)	三好智子，松村憲一，小笠原一生， <u>長岡雅美</u> 微細運動の定量的な指標として、円描画の利用可能性を目的とし、幼児の円描画の特徴と保護者による評定である発達性協調運動障害質問紙のうち微細運動得点との関連を明らかにした。タブレット端末を用いた円描画課題と質問紙の得点によって群分けし、4歳児と5歳児それぞれの描画の逸脱率の違いについて報告した。
6. ポスター発表「円描画における微細運動における微細運動分析(2)」	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会論文集，pp.834. (久留米大学)	松村憲一，三好智子，小笠原一生， <u>長岡雅美</u> 微細運動の定量的な指標として、円描画の利用可能性を目的とし、タブレット端末を用いて円描画課題を実施し、利き手非利き手による幼児の円描画の特徴を検討した。そして、円の回転方向と描画の開始位置、利き手非利き手による円の逸脱数の違いについて報告した。
7. 運動能力テストからみた幼児期におけるコーディネーション能力の特徴	単	2016年8月	日本幼児体育学会第12回大会	運動能力の中心コンポーネントであるコーディネーション能力に着目し、幼児の基本的運動能力の縦断的測定からコーディネーション能力の発達の特性について検討する。
8. 自治体における成人人口を対象とした運動・スポーツ事業と市民の実施頻度・継続期間・組織所属との関連性	共	2016年5月	兵庫体育・スポーツ科学学会第27回大会	谷めぐみ，長ヶ原誠， <u>長岡雅美</u> ，伊藤克広，玉井久実代，益富真子 担当：文章校正，データ分析 データH県A市の各種運動・スポーツ推進事業と、A市スポーツ推進施策でもある市民の運動・スポーツの実施頻度、活動の継続性、組織への所属との関連について検討した。
9. 幼児教育・保育における運動遊びの現状と運動指導に対する保育者の意識	単	2015年12月	日本レジャー・レクリエーション学会第45回大会	幼稚園及び保育園に勤務する208名の保育者を対象に質問紙調査を実施し、園(所)での運動指導の内容、最も力を入れている保育内容、運動指導に関する考え、保育者の観察による幼児の運動の出来等から運動指導における現状と子どもの運動発達について検討した。
10. 尼崎市の地域スポーツ指導者の実態と活動ニーズに関する質的・量的研究	共	2014年6月	兵庫体育・スポーツ科学学会第25回大会	谷めぐみ，長ヶ原誠， <u>長岡雅美</u> ，伊藤克広，玉井久実代，益富真子 担当：文章校正，データ分析 地域のスポーツプロモーションに関わる指導者の実態や意識が十分に把握されていない現状を踏まえ、運動・スポーツを支援している地域スポーツ指導者に対して質問紙調査及びヒヤリング調査を行った。「スポーツ栄養」「対人関係スキル」について専門的知識習得のニーズが高い他、課題としては指導者の高齢化に伴い後継者の育成に苦慮している現状が明らかとなった。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 金メダルへのみちしるべ 初歩の動作学—トレーニング学	共	2014年3月	Lehmanns Media	高橋日出二，綿引勝美，上田憲嗣， <u>長岡雅美</u> ，多田久剛，横手健太，鈴木タケル，豊田太郎 C.Hartmann, H.Minow, G.Senf, 『Sport verstehen-Sport erleben』 スポーツ科学・トレーニング学の背景を明らかにし、スポーツ行為を根拠づけるさまざまなテーマについて理解を深めるために、ドイツのスポーツギムナジウムで使われている教科書を翻訳したものである。 担当：スポーツ専門用語の整理確認
2. 幼児期におけるコ	単	2012年12月	ユーハイム・ス	幼児期における運動・スポーツの重要性を指摘し、文部科学省が

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
オーディネーショントレーニングを取り入れた運動遊び	共	2012年8月	スポーツフォーラム2012	発表した幼児期運動指針にに沿って、コーディネーショントレーニングを取り入れた運動あそびの展開例を紹介した。
3. 第8回トレーニング科学・国際集中講座報告書	共	2012年8月	公益財団法人ユースハイム体育・スポーツ振興会	野口研治, 倉直樹, 春名桂, <u>長岡雅美</u> , 岡みゆき 担当: p16, 17, 21-23, 30, 38, 39 ライプチヒ大学スポーツ科学との交流協定に基づき取り組まれている国際集中講座の内容がまとめられている。中でも、ライプチヒ学派の「コーディネーション理論」「動作観察法」「タレント発掘・育成」など指導者において重要な基礎理論に重点が置かれている。
4. 地域に貢献する大学体育の在り方	単	2012年7月	全国大学体育連合	大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては大学の社会貢献の重要性が強調されている。他大学や海外の事例を踏まえ、大学のスポーツ資源を活用した地域貢献の可能性について言及した。
5. 生涯スポーツの指導・普及について	単	2011年6月	阪神北地区体育指導委員会総会	生涯スポーツ社会の実現に向けて、人々はどのようにスポーツを捉えるべきか、また指導者は、何をどのように指導すべきなのかについて提言した。
6. レクリエーション教育の効果Ⅱ～学生への聞き取り調査から～	共	2011年5月	日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校全国研究集会	山本存, <u>長岡雅美</u> , 田島栄文, 弘原海剛, 和久宗利, 中山ふみ江 担当: 調査・結果分析評価 レクリエーション協会が認定する課程認定校において、多様な専門領域で学ぶ学生にとって、レクリエーション教育がどのように活かされるのか、先に行った質問紙調査の結果に加え、聞き取り調査の結果からより質的な部分に踏み込んで考察したものである。
7. 生涯スポーツから健康を考える	単	2010年9月	阪神・丹波地区生涯スポーツ指導者研究会	「レクリエーション」についてその概念規定を明確にした上で、スポーツとのかかわりを再確認し、生涯スポーツ社会の実現に向けて、人々はどのようにスポーツを捉えるべきか、また指導者は、何をどのように指導すべきなのかについて提言した。
8. スポーツ少年団の発展と地域における役割—地域スポーツクラブとの連携の可能性から—	単	2007年6月24日	全国スポーツ少年団指導者研究大会	地域における組織の認知度と市の政策との視点からスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの関係を分析し、スポーツ少年団の更なる発展のための課題について提案した。
9. 地域における高齢者ボランティアグループの活動継続に向けて—社会参加の現状から—	単	2007年	尼崎地域サポート支援事業交流会	地域事業を事例として高齢期における社会参加の活動の現状を把握し、高齢者の活動上の問題点や継続のための条件について考察し、地域における高齢者の社会参加を促進するための条件について具体的な提案をした。
10. 高齢者に向けたレクリエーションプログラムの提供	単	2007年	尼崎地域サポート支援事業交流会	社会福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にし、地域福祉におけるレクリエーション支援の方向性について概観しながら、アセスメントから具体的なプログラム提供、評価にいたる一連のプロセスについて提示した。
11. 地方・地域体育協会を中心としたクラブ育成に関する調査研究事業	共	1999年3月	日本体育協会	有澤駒雄, 赤松喜久, 古田峰子, 前田嘉昭, 松田雅彦, 坪田信道, <u>長岡雅美</u> , 永松昌樹 担当: データ分析 本報告書は、日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成モデル指定地区16地区のクラブ員及び指導者を対象に調査を実施し、その結果をまとめたものである。
12. 生涯スポーツ団体等による生涯スポーツの核となるクラブづくりの在り方に関する研究開発—文部省生涯学習局委託事業—	共	1997年3月	日本体育協会	有澤駒雄, 赤松喜久, 古田峰子, 前田嘉昭, 松田雅彦, 坪田信道, <u>長岡雅美</u> , 永松昌樹 担当: データ分析 総合型地域スポーツクラブの育成に向けて、モデルクラブを6地区を指定し、体育・スポーツ関係者、学校関係者、有識者等による「スポーツクラブ育成協議会」を中心に、地域住民参加のスポーツ体験教室やスポーツ交流イベントを実施し、総合型地域スポーツクラブの組織化に向けた実践的な活動をまとめた。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 豊中市におけるマルチスポーツ体験教室	共	2023年7月1日 2024年3月	豊中市都市活力部 スポーツ振興課	研究代表者 学童期に様々なスポーツを体験する機会を創出し、青年期以降の運

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
の实践		31日		動部活動や生涯スポーツへの参加促進、スポーツ実施率の向上につなげることを目的とする。また、マルチスポーツ体験教室のプログラムの開発と実践を行い、スポーツに対する意識の変化等を検証する。
2. 豊中市における子どもの運動プログラムの実践	共	2022年4月～2023年3月	豊中市都市活力部スポーツ振興課	研究代表者 大学による専門的な知見を活用し、運動プログラムの開発、実践、効果測定を行い、体力の向上や運動に対する意識の変化等を検証する。
3. 幼児期から児童期におけるコーディネーション能力の発達	共	2019年4月～	科学研究費補助金基盤研究(C)	研究代表者
4. 体育指導とセンシング情報の解析・応用研究	共	2018年	電気通信普及財団研究調査助成	研究分担者
5. 体育、保健体育科の授業、運動部活動における情報機器を効果的に活用した指導の在り方文部科学省スポーツ・青少年局企画事業	共	2015年4月～2016年3月	文部科学省スポーツ・青少年局企画事業	研究分担者
6. 地域スポーツ指導者の実態と活動ニーズに関する質的・量的研究	共	2013年4月～2014年3月	兵庫体育・スポーツ科学学会学術研究助成	研究分担者
7. レクリエーション教育の効果に関する研究Ⅱ	共	2010年4月～2011年3月	日本レクリエーション協会課程認定校研究助成事業	研究分担者
8. レクリエーション教育の効果に関する研究Ⅰ	共	2009年4月～2010年3月	日本レクリエーション協会課程認定校研究助成事業	研究分担者
9. シニア世代におけるボランティア活動の支援プログラムに関する基礎的研究	単	2007年4月～2008年3月	日本レクリエーション協会課程認定校研究助成事業	

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年～現在	日本DCD学会
2. 2017年～現在	日本幼少児健康教育学会
3. 2016年～現在	日本保育学会
4. 2014年8月～現在	日本幼児体育学会
5. 2010年4月～現在	兵庫スポーツ体育学会
6. 2000年4月～現在	日本レジャー・レクリエーション学会
7. 1989年4月～現在	大阪体育学会
8. 1989年4月～現在	日本体育学会